

一般社団法人おもやい

2024年度 事業報告 (案)

u

□はじめに

おもやいの2024年度は元日に発生した能登半島地震によって幕があがってしまった。予期せぬ事態に誰もが心を痛め、何かできないかという地域の方々からの後押しもあって能登半島に関わらせてもらうことになったが、一度出会ったら「ほっとけない」「おせっかい」な私たちはその後幾度となく足繁く能登半島に通うこととなった。

これまで九州圏域で発生した災害への対応を実施してきた経緯はあったが、これほど距離のある被災地にここまで関わりを持つことは初めてであったが、そのこと以上に能登半島から今、私たちが学ぶべき事象が数えきれないほどあったことが重要な視点である。

特に、今後地方における大規模災害（特に九州では南海トラフ地震を想定した場合）が発生した際に起こりうる課題が一気に浮き彫りになったことと、奇しくも阪神淡路大震災から30年目前、新潟県中越地震から20年という節目の年というタイミングから鑑みても、今回の能登半島における特に国・県・市町の災害対応は教訓・経験が生かされたとは言い難い状況あることを思い知らされた。

今、内閣府を中心に防災庁の設置に向けた準備が進められているが、果たして今回の能登からの教訓をどのように捉え、どのような施策へと帰結するのか十分に注視しておく必要がある。

その上で改めて「おもやい」としての役割が何なのか、今後も検討を重ねていくことが重要である。

一方、フードリンク事業を中心とする平時の取り組みや、地域包括ケアシステム拠点へのサポート、訪問活動やお困りごと対応など、地道に地域に根ざして活動を継続しながら、生活のサポート、防災の取り組みなど、こうした各種の事業を実施している団体は全国的にも非常に珍しく、「地域密着多機能型拠点」としての役割は徐々に注目を集めている。

これはとりも直さず、それぞれが思いを持ちながらこれまでおもやいでの取り組みを自分ごととして積み重ねてこられた結果であり、実績である。

ただ、注目されているという反面、こうした団体を支える仕組み（助成事業等）は少なく、それぞれの事業の連関性はあるつつも事業ごとに切り分けて各種助成財団に申請することを続けているという状態であり、継続的な資金獲得にはまだまだ努力・工夫の余地がある。

□地域内活動

1. 訪問活動(新型コロナウイルス感染対策活動・生活困窮の方々へのサポート含む)

継続しての訪問活動をオカベース、(一社)みんなの居場所はちはちと共に実施。地区はこれまでの特に気になる方へは必要に応じて関係機関へとおつなぎするなどの対応を行なった。また、今年度で5年にわたって味の素冷凍食品株式会社より冷凍食品の提供が継続的にしていただいていることから、こうした食品を活用して訪問の継続の後押しになっている。

2. サロン活動

地域共生センターそよぎを活用してのサロン等を実施した。特に、マッサージを提供してくださるタクティールさんのサロンやヨガ教室などは一定定着し、「いやしの日」として多くの方々がこの拠点に出入りをしてくださった。こうした他団体がこの場を利用して、それぞれの取り組みを提供してくださることは多機能拠点として重要な位置付けであると認識し、今後もこの場をさまざまな方々に活用してもらおうよう働きかけをしていくことが望ましい。

1月	21日 ヨガ教室
15日 ヨガ教室、タクティール訪問	
26日 いやしの日	7月
31日 ヨガ教室	5日 ヨガ教室
	19日 ヨガ教室
2月	
6日 タクティール訪問	8月
14日 ヨガ教室	2日 ヨガ教室
	9日 タクティール訪問
3月	23日 ヨガ教室
1日 ヨガ教室	
	9月
4月	6日 ヨガ教室
5日 ヨガ教室	20日 ヨガ教室
12日 タクティール訪問	29日 アロマ体験
19日 ヨガ教室	
22日 いやしの日	10月
28日 アロマ体験	11日 ヨガ教室、タクティール
	25日 ヨガ教室
5月	
10日 ヨガ教室	11月
13日 タクティール訪問	8日 ヨガ教室、タクティール
24日 ヨガ教室	25日 いやしの日
	29日 ヨガ教室
6月	
7日 ヨガ教室、タクティール訪問	12月
11日 いやしの日	13日 ヨガ教室、タクティール

また、「みんなの遊び場」の実施は以下のとおり。

1. 1/8(月)冬休み 利用 5 名
2. 1/10(水) 利用 9 人
3. 1/24(水) 利用 11 人
4. 2/14(水) 利用 25 人
5. 2/21(水) 利用 24 人
6. 3/13(水) 利用 13 人
7. 5/8(水) 利用 24 人
8. 5/15(水) 利用 22 人
9. 5/29(水)ラジオ作り教室 利用 8 人
10. 6/12(水) 利用 23 人
11. 6/19(水) 利用 27 人
12. 7/10(水) 利用 25 人
13. 8/21(水) 夏休み 利用 16 人
14. 9/4(水) 利用 22 人
15. 9/11(水) 利用 30 人
16. 10/23(水) 利用 31 人
17. 11/13(水) 利用 19 人
18. 11/27(水) 利用 23 人
19. 12/18(水) 利用 18 人

合計 19 回 利用者数延べ 375 名 (平均約 20 名の利用)

親御さんからは「近くに同じくらいの子供がいないから、遊び場がある時はとにかく嬉しくて学校に行ってるんです」と言うお声をいただいた。子どもたちものびのび過ごしている一方で、参加人数が多くなればなるほど見守る側のスタッフの体制も留意しておく必要がある。

3. イベント

今年度は能登半島地震の対応などもあり、例年に比べて多くの企画を実施することは叶わなかったが、季節ごとのイベントなどを定期的に実施することで地域での需要があることを再認識することができた。

<イベント実施>

- 1月28日 おもやいお茶会
- 3月3日 ひな祭り
- 4月28日 アロマ体験
- 8月25日 夏祭り
- 12月21日 クリスマス会&しめ縄教室

4. 会員制「おもやい防災あんしんセット」の実施

令和2年から実施してきた「おもやい防災あんしんセット」の配布を今年度で最後とし、今後は必要な物品のオーダーに応じて実費等で販売していくこととする。

合計 316 世帯に配布

5. ボランティア活動

地域内においては、さまざま小さなお困りごとから片付け依頼など、各種対応を実施。今後もこうしたご近所への対応を実施していく。

6. 大町町における防災拠点の運営サポート

大町町における防災拠点を中心に実施している日本財団災害対策拠点プロジェクト（運営団体：佐賀災害支援プラットフォーム）の企画・運営の委託を受け、実施。令和4年度から実施してきたが、今年度で終了。

7. 「おもやいフードリンク」事業の実施

1. 1/7・9 冬休み餃子の王将弁当配布 21世帯（大人13人、子ども57人）
 2. 1/21・22 定例配布 75世帯（大人114人、子ども173人）
 3. 2/9、11～13 臨時配布(即席ラーメン) 33世帯（大人56人、子ども99人）
 4. 2/18・19 定例配布 69世帯（大人106人、子ども156人）
 5. 2/27～3/1 臨時配布(チーズ) 35世帯（大人62人、子ども96人）
 6. 3/17・18 定例配布(令和5年度ひとり親家庭等の子どもの食事等支援事業)111世帯（大人106人、子ども208人）
 7. 3/31 春休み餃子の王将弁当配布 8世帯（大人9人、子ども21人）
 8. 4/23・24・26 定例配布 71世帯（大人107人、子ども166人）
 9. 5/19～21 定例配布 70世帯（大人104人、子ども155人）
 10. 6/16～18 定例配布 77世帯（大人117人、子ども176人）
 11. 6/28・29、7/3 臨時配布(ミートボール) 18世帯（大人27人、子ども47人）
 12. 7/16・17 定例配布 76世帯（大人116人、子ども182人）
 13. 8/4 夏休み餃子の王将弁当配布 11世帯（大人5人、子ども25人）
 14. 8/4～6 定例配布① 66世帯（大人101人、子ども164人）
 15. 8/18～20 定例配布② 75世帯（大人113人、子ども175人）
 16. 9/25～27 定例配布 72世帯（大人108人、子ども165人）
 17. 10/26・27 定例配布 77世帯（大人112人、子ども175人）
 18. 11/16・17 定例配布 78世帯（大人116人、子ども187人）
 19. 12/3・4・6 定例配布① 72世帯（大人108人、子ども168人）
 20. 12/22～24 定例配布② 82世帯（大人121人、子ども193人）
- のべ1,197世帯、大人1,721人、子ども2,788人に配布

子ども
食持ち

昨年度に引き続いてよりみちステーションと協働でおおよそ月1回の配布会をめぐりに実施した。令和5年度では登録世帯が115世帯だったのが現在130世帯(令和7年1月現在)へと増加し、食料配布利用については令和5年1月から12月ののべ利用世帯944世帯3,593人に対して令和6年1月から12月ののべ利用世帯が1,141世帯4,251人と120%の増加となっている。さらに令和6年で利用されているひとり親世帯はこのうち約60%に上る。

武雄市こどもの貧困対策課・笑顔コーディネーターやスチューデントサポートフェイス(武雄若者サポートステーション)、スクールソーシャルワーカーなどとの連携により対象世帯数が増加しているが、一方で個々の世帯が抱えている課題などは単一ではなく複合化している状況などもあり、早期課題解決とは結びつかないものが多いことから、今後もこのフードリンク事業を軸としながら多面的なくらしのサポート機能を充実させていくことが望まれる。

8. 地域食堂「そよぎ de ごはん」の実施

みんなの居場所はちはちと協働で地域食堂「そよぎ de ごはん」事業を毎月実施してきた。

1. 1月14日(日) 利用72人(大人32人、子ども40人)
2. 2月11日(日) 利用53人(大人22人、子ども31人)
3. 3月10日(日) 利用65人(大人32人、子ども33人)
4. 4月14日(日) 利用78人(大人36人、子ども42人)
5. 5月12日(日) 利用92人(大人49人、子ども43人)
6. 6月9日(日) 利用74人(大人39人、子ども35人)
7. 8月11日(日) 利用65人(大人30人、子ども35人)
8. 10月13日(日) 利用66人(大人35人、子ども31人)
9. 11月10日(日) 利用105人(大人50人、子ども55人)
10. 12月8日(日) 利用93人(大人50人、子ども43人)

のべ763人(大人375人、子ども388人)参加

※7月14日(日)線状降水帯注意報発令のため中止、9月8日(日)台風10号被害における宮崎市支援へスタッフ派遣のため中止

本年度もみんなの居場所はちはちとの共同開催、並びにオカベース等のご協力のもと毎月の開催が実現した。本年度は7月・10月と中止に至ったが、他の月は平均して76.3名の参加と、昨年の平均60人から大幅増となった。割合としても大人が平均37名、子どもが平均38名となり、どちらも昨年の平均から増加だが、特に大人の参加が増加していることも注目される。地域に根ざした活動として今後も継続して実施していく。

9. そよぎ学習塾の実施

- | | |
|-------------------------|-------------------|
| 1. 1/9(火) 利用7人 | 18. 8/9(金) 利用3人 |
| 2. 1/16(火) 利用11人 | 19. 8/23(金) 利用4人 |
| 3. 1/28(日) 試験前特別開催 利用1人 | 20. 9/3(火) 利用3人 |
| 4. 1/30(火) 利用6人 | 21. 9/10(火) 利用4人 |
| 5. 2/13(火) 利用9人 | 22. 9/17(火) 利用2人 |
| 6. 2/20(火) 利用9人 | 23. 9/24(火) 利用8人 |
| 7. 2/27(火) 利用10人 | 24. 10/1(火) 利用4人 |
| 8. 3/3(火) 利用5人 | 25. 10/8(火) 利用9人 |
| 9. 3/10(火) 利用9人 | 26. 10/15(火) 利用7人 |
| 10. 6/8(土) 利用3人 | 27. 10/22(火) 利用8人 |
| 11. 6/15(土) 利用2人 | 28. 10/29(火) 利用9人 |
| 12. 6/21(金) 利用7人 | 29. 11/5(火) 利用4人 |
| 13. 6/28(金) 利用5人 | 30. 11/12(火) 利用6人 |
| 14. 7/6(土) 利用4人 | 31. 11/19(火) 利用7人 |
| 15. 7/19(金) 利用5人 | 32. 11/26(火) 利用8人 |
| 16. 7/26(金) 利用8人 | 33. 12/3(火) 利用8人 |
| 17. 8/3(土) 利用6人 | 34. 12/10(火) 利用8人 |

35. 12/17(火) 利用 9 人

36. 12/24(火) 利用 11 人

合計 36 回、延べ 249 人 (平均 7 名)

みんなの居場所はちほちと協働で毎週火曜日に無料の塾を開校した。昨年度より開催回数は大幅に増えているが、平均利用者数は前年度と横ばいである。しかし、本事業が一定の効果が確保されていることとみなすことができ、今後も実施していく。

ちなみに、本年度 3 月の受験において、塾利用者で高校への進学希望者全員が合格されたことはここに特筆しておきたい。

10. 防災に関する勉強会・講習会の実施

要望される地域に防災に関する講習会等を実施した。

1 月 16 日北方町久津具地区老人会

6 月 2 日北方町久津具地区老人会

2 月 7 日筑紫野市つばさの会

6 月 8 日朝日町高橋地区子供クラブ

2 月 16 日北方町焼米地区老人会

6 月 12 日日田市大鶴地区

2 月 17 日佐賀市神野まちづくり協議会

6 月 13 日朝日町公民館ふれあい講座

2 月 18 日白石町馬田地区

6 月 29 日子供ラジオ製作教室

3 月 9 日長崎市 TAKENOEN

7 月 12 日北方町サロンの集い

4 月 21 日おもやい防災学校、北方町婦人会総会

7 月 26 日防災料理教室

7 月 31 日塩田包括支援センター

5 月 29 日子供ラジオ製作教室

9 月 1 日武雄市避難訓練

11. 相談窓口の設置

これまでの災害にとどまらず、フードリンク事業から発生してきた様々な相談について対応できるよう電話窓口を設置したが、直接的な問い合わせは数件あったが、実質フードリンクの配布会に合わせてヒアリングを行うことで具体的な相談を受け、それぞれの相談に応じて必要機関に繋げる、またはおもやい独自で対応できる案件については随時対応を行った。

12. 「居住支援法人」指定の取得

相談事業に合わせて、佐賀県より「居住支援法人」指定を取得し、住宅確保用配慮者（災害による被災者を含む）の見守り、相談、住宅入居に係るサポート等を実施するため、指定を本年度目指したが、次年度へと持ち越し、継続して準備・申請を進める。

13. 武雄市・大町町との連携会議への参画

一昨年から続く会議への参加を継続して行った。大町町での連携会議への参加がなかなか難しい面もあるが、今後も継続して開催される際には参加をしていく。

武雄市に関しては今年度は 2 度の開催となり、具体的な災害時における連携 (SPF が窓口) をしていくためのテーマを掲げ (炊き出し、避難所、物資)、それぞれどのような連携が可能かを現在も模索をしながら話し合いを続けている。

14. 他団体との連携事業

佐賀災害支援プラットフォーム（SPF）をはじめとする各種団体との連携事業を随時実施した。今年度から SPF の運営委員、また震災がつなぐ全国ネットワークの役員に任命され、今後も継続した連携を行なっていく。

□県内活動

1. 災害支援活動（相談業務も含む）

今年度は 6 月から休眠預金活用事業（分配団体：佐賀災害支援プラットフォーム）を受けて、令和 5 年に発生した佐賀市・唐津市中山間地における豪雨による土砂災害によって被災した農地などの応急復旧対応事業を実施した。

件数は 20 件弱となったが、今後大小関わらず、大雨による中山間地でのハザードを想定した時にこうした体制も検討する必要がある。

2. 「おもやい生活再建支援金」の継続

昨年度の経験から支援金の必要な自治体へ配布できる体制を維持したが、本年度は実施に至らなかった。

□県外活動

1. 本年度は宮崎県内における台風に起因する竜巻被害が宮崎市において発生し、宮崎文化本舗・YNF と連携して被災したエリアの訪問活動を実施した。

実質、九州圏内におけるネットワークの構築につながっており、今後も南海トラフ地震を見据えての連携を模索していく。

2. 2024 年 1 月に発生した能登半島地震において、スタッフをローテーションで派遣しながら現地で活動している被災地 NGO 協働センターをサポートする形で現地での活動を実施した。今年度はのべ 711 日の派遣となり、炊き出し・物資配布・片付けをはじめとして、地域からのニーズへと対応や各種イベントの企画・参加、地元の祭りへの参加を重ねて、地域住民の方々との交流も深めてきた。

今後も長期化が予測される被災地の復興に向けて、次年度以降もみんなの居場所はちほち、オカベースと連携しながら被災地 NGO 協働センターの現地での活動のサポートを実施していきたい。

□その他

1. 佐賀県ふるさと寄附金（NPO 等を指定したふるさと納税を活用した支援）の活用を本年度において目指したが、ふるさと納税の性質を鑑みると、おもやいへ寄せられる寄付は共感性の高さによるものと考えた時、当法人による安易なふるさと納税の利用は躊躇うところもあり、今年度は見送ることとしたが、今後も活用の検討を行なっていく。